

田村剛にみる海岸地域の景観特性に関する研究

—(その1)「市政」全7巻を通じて—

A Study on the Landscape Characterization of Coastal Zone in Tamura Tsuyoshi

—(Part 1) A focus on an analysis of "SHISEI" all the 7 volumes—

○清永修平¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 鈴木健介⁴Syuhei Kiyonaga¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³ and Kensuke Suzuki⁴

Abstract: The purpose is to grasp the first landscape characterization of coastal zone. Therefore, The thought of Tsuyosi Tamura who is a pioneer of scene research was analyzed. This research clarified the following thing.①The feature of a seashore of Japan is 3 type.②The object of a seashore scene has a main natural feature.③The view from various distance belts is important for a seashore scene.

1. 背景および目的

四方を海に囲まれたわが国は、国土面積約 38 万 km² と世界第 61 位であるのに対し、海岸線総延長距離は、約 34,000km と世界で 6 番目に長い。この狭い国土で長い海岸線を有する理由は、島嶼が多いことにくわえ、海岸線が複雑に入り組んでいることが挙げられる。こうした特異な地形を有するわが国の海岸線には、その地域特有の景観が数多く存在する。

一方、2011(平成 23)年 3 月 11 日に発生した東日本大震災以降、東北地方の復興まちづくりにおいて、海岸地域の景観特性として何を守り継承すべきかといった議論が活発化するとともに、これまでのその地の風景を大きくゆがめるような巨大な海岸構造物を海岸線に設置するといった議論も進められている。こうした状況をふまえると、海岸地域において守るべき原初的な景観特性や成り立ちを認識しておくことは、今後の海岸景観の保全・形成において極めて重要な視点と考える。

そこで本稿では、わが国の景観分野の礎を築いた田村剛に着目し、その風景観を通じて、わが国の原初的な海岸景観の特性を捉えることを目的とする。その田村剛とは、全国の景勝地を巡ることで国立公園選定に邁進し、また、海中公園制度の策定にも寄与するなど、海岸景観に関して卓抜した視点を持つ人物である。

2. 研究方法

本稿では、原初的な海岸景観の特性を把握するため、全国の国立公園およびその他の景勝地について、田村自身の風景観を自らが綴っている「市政」^{[1]*1} 全 7 巻を対象とし、その記載内容の特徴について分析を行う。

3. 結果および考察

「市政」で記述されている海に面する国立公園の位置を Figure 1 に、また、当該公園に関する記述内容を Table 1、海岸線の観賞形態を Figure 2 にそれぞれ示す。

以降では、これらをもとに、「市政」の読み取りの結果について、共通してみられた傾向および公園別の景観的特徴について述べていく。

(1) 日本の海岸景観の特性と分類—田村は日本の海岸景観の特徴について、主に海岸線の地形を評価対象としている。海岸景観を称賛する言葉として「豪壮雄大」や「壯絶豪快」などと規模が大きく力強い表現を用いている。他方、日光など内陸の景勝地に関しては、「雄大ではなく、むしろ繊細優美」と細やかで、上品な印象を与える表現がなされ、海岸と内陸の景観的価値を明確に分けることにより、お互いの独自性を際立たせている。さらに、海岸地域において「三大海岸景勝地」をその地形特性により定めているのも特徴である。ひとつは、軀幹海岸として『陸中海岸』、そして島嶼として九十九島、平戸などからなる『西海』、最後に、内海として『瀬戸内海』の計 3ヶ所を定めている。



Figure 1. Spatial relationship of the national park for Spatial relationship analysis (This is original Figure my authors)

1 : 日大理工・院・不動産 2 : 日大理工・教員・建築 3 : 日大理工・教員・交通 4 : 日大理工・学部・交通

Table 1. The viewpoint place, landscape element and description about each national park written by "municipal government"^[1] (This is original Table my authors)

NO	公園名	視点場	景観要素	景観に関する記述(抽出文献)
1	陸中海岸	舟	岩, 隆, 湾, 海成段丘, 岬, 沈, リ, 海蝕崖, 海蝕洞, 洞窟, 洞門, 植物, 海鳥	①小舟で二日間にわたって視察し, その偉大な景観にうたれ, 少なくともそれまで見た何れよりも優れているものだという印象をうけた. (5巻9号 p87) ②陸中海岸が外洋に面する豪壮な岩石海岸としては国内に傑出するとの確信をえている. (5巻9号 p87) ③スペインのリアス式海岸に匹敵する奇勝であって, ともに世界的である. (5巻9号 p87) ④岩手名物のアカマツと広葉樹林との混交林で海岸地方としては珍しい美林であって, これも他の地方には類が少ない. (5巻9号 p88) ⑤この景勝(④)を探るには, 小舟艇によることをすすめたい. (5巻9号 p88) ⑥海鳥類の繁殖で, これの集まった時には, 実に牡鹿を呈するが, これも舟でないとよく見えない. (5巻9号 p88)
2	瀬戸内海	陸岸高地 舟 航空機	岬, 湾, 多島海, 山地, 海潮流, 島, 岩島, 岩礁, 中州	①島が多いので多島海として著名であって, 瀬戸内海が世界的な景勝と呼ばれる. (6巻1号 p49) ②瀬戸内海が世界的に優れているわけはその水面が手頃の大きさであることである. (6巻1号 p49) ③特に香川県にある奇抜な火山の地形はよい背景となっているし, 島にも火山が多くて, 内海第一の景勝となっている. (6巻1号 p49) ④紀淡や鳴門や関門や豊予野海峡には, 海潮流の奇観が見られ, 特に鳴門は世界的な偉観である. (6巻1号 p49) ⑤陸岸又は島嶼の高地に登って大観する. (6巻1号 p50) ⑥第二の方法は船舶による海上からの展望であるが, これは航路によって大きな差がある. (6巻1号 p50) ⑦第三の観光は航空機による空からの探勝である. (6巻1号 p50)
3	山陰海岸	舟	岬, 湾, 鏡形の海岸, 海蝕崖, 海蝕洞, 天然橋, 岩島	①海蝕崖, 海蝕洞, 天然橋, 岩島等の豪壮で変化に富んでいる絶景の連続で陸中海岸に次ぐ景勝地といえる. (6巻1号 p51) ②陸岸から眺めることができないので, 舟艇により海岸に接近して観光しなければならぬ. (6巻1号 p51) ③日本一の砂丘である鳥取砂丘と合わせて, 山陰海岸国立公園に指定され, まだ世に知られざる秘勝である. (6巻1号 p51) ④知夫里島群島の国賀海岸のように壮絶豪快を極める大海蝕崖があって, これは日本一の大観といってよい. (6巻1号 p51)
4	雲仙天草	高地 舟	多島海, 国際的な色彩	①瀬戸内型が多島海として特徴が支配的である. (6巻2号 p47) ②国際的な色彩を帯び発達し, その景観はそれほど傑出するものではないが, 国立公園として第一次の選に入ったのはこうした由緒がももをいった形である. (6巻2号 p47) ③竜ヶ岳のような高地に立って大観したので, 天草の良さは内海と同様にその大観にある. (6巻2号 p48) ④静かな内湾で, 海上利用に好適である. (6巻2号 p48) ⑤潮汐の差が五米にも達し, 瀬戸内海を凌駕して日本一である. (6巻2号 p48)
5	西海	高地 上空	植物, 海蝕崖, 島, 史跡, 教会	①海岸には亜熱帯植生が立派に見られるほど, 局部にも面白いものがある. (6巻2号 p49) ②外洋に面する豪壮な海蝕崖と, 高地から大観する島々の展望の傑出する点が特色で, いわば陸中海岸と瀬戸内海とを合併したような景観である. (6巻2号 p49) ③上空から俯瞰するのが最も優れた観光であると思われる. (6巻2号 p49) ④至る処に教会の塔が聳えて景観に異彩を放っている. (6巻2号 p49)
6	霧島屋久	山上 車 上空	岩, 島, 植物, 沈, 神宮, 動物	①霧島山上からの錦江湾の展望は頗る優れている. (6巻2号 p91) ②臨海道路をドライブすれば, 桜島と開聞岳とを最後にふりわけて, 鹿児島湾は湖水のように眺められる. (6巻2号 p93) ③錦江湾の上空を一周したことがあるが, これを霧島上空と合わせれば, 全国的にも誇るに足る, 空の観光ルートである. (6巻2号 p91) ④屋久島は頗る急峻な山地で, それが海洋に聳立するさまは, 実に世界にも稀有な景観. (6巻2号 p94)

【凡例】 岩: 岩石海岸 隆: 隆起海岸 沈: 沈降海岸 リ: リアス式海岸

事例	陸中海岸	瀬戸内海	西海
分類	海上より海岸眺望型	高所より海眺望型	上空より海眺望型
公園	1 陸中海岸, 2 瀬戸内海, 3 山陰海岸, 4 雲仙天草,	2 瀬戸内海, 4 雲仙天草, 5 西海, 6 霧島屋久	2 瀬戸内海, 5 西海, 6 霧島屋久
記述	1-①, 1-⑤, 1-⑥, 2-⑥, 3-②, 4-④	2-⑤, 4-③, 5-②, 6-①	2-⑥, 5-③, 6-③
特徴	海岸線の景観要素を立体的に眺望	遠景まで見通すことが可能	地形を平面的に眺望

Figure 2. The classification of the admiration form in the seashore [The number in the description column corresponds to Table 1]. (This is original Figure my authors)

このことより, 海岸地形の大きな分類として「軀幹海岸」「島嶼」および「内海」の3つがあると考えられる。

(2) 景観要素—Table 1より視対象となる景観要素としては, 岩石海岸をはじめ海蝕崖や湾, 岬など地形に関する記述が多くを占めていることがわかる。また, 植物や動物など生態系に関する記述も見受けられる。そのほか, 『雲仙天草』の「国際的な色彩(Table 1, 4-②)」や『西海』の「教会の塔(Table 1, 5-④)」といった文化的風景も挙げられている。これは古来より海が交通の要衝であり, 海を通じて伝来した西洋文化の多くが海岸地域で発展してきたため, こうした異国の文化的風景も海岸景観の魅力的要素の一つに含められたと考える。

(3) 観賞形態—Figure 2に示すように, 海岸の観賞形態は, 3つに大別される。1つ目は, 視点場を海上に設定し, 通常は視対象となるであろう水面の付近から海岸地形を立体的に眺望する形態である。2つ目は, 山地などの高地より, 遠景まで見渡すことができ, 壮大なパノラマ景観を一望する形態である。3つ目は, 航空機などの上空から海と島のコントラストを平面的に俯瞰する形態

である。これらは, 景観要素を近景, 中景および遠景と多様な距離帯で観賞することができる。さらに, より良い景観を得るためには, 海上, 高台および上空といった, 多様なレベルの視点場の重要性が示唆された。

以上より, 田村にみる海岸景観の特性として, 規模が大きく力強い海岸地形が視対象となり, その分類は主に「軀幹海岸」「島嶼」および「内海」の3つであった。また, 景観要素としては, 地形や生態系などを景観要素としているが, なかには, 異国の文化的な風景も景観要素となっていた。そして, このような景観の観賞形態としては, 近景, 中景および遠景と多様な距離帯を通じて「奥行きのある海岸景」が眺望できる視点場の重要性が示唆された。

4. 補注・参考文献

※1: 機関雑誌「市政」は全国市長会が財団法人全国市長会館と共同発行する機関誌であり, 都市行政関係者のための総合雑誌として毎月1日に発行。市政の中で, 「国立公園めぐり」という特集が全7巻にわたり掲載。その内容は, 北海道から九州までの国立公園について田村の風景観を交えながら紹介している

[1] 田村剛: 「市政」, 全国市長会, 5巻8号 pp. 38~44, 1956. 8, 5巻9号 pp. 84~90, 1956. 9, 5巻10号, pp. 46~53, 1956. 10, 5巻11号 pp. 70~75, 1956. 11, 6巻1号 pp. 46~53, 1957, 1 6巻2号 pp. 44~50, 1957. 2, 6巻3号 pp. 90~95, 1957. 3